

特別養護老人ホーム もくせい 社会福祉法人北養会 《茨城県水戸市》

平成20年開設

入居 / 50床 短期入所 / 20床

併設 / 通所介護、救護施設等

もくせい



病院

介護・福祉施設

専門学校

救護施設

フィットネスジム

保育園

コンビニ

レストラン



全国でも珍しい医療、福祉、教育、健康などの施設が集まる地域交流の活性化につながる複合エリア

1. 生産性向上 「失敗」 の背景

もくせい稼働率
目標値99%

社会資源として、
多くの方にご利用いただき、
より良い地域をつくるため

2021年
稼働率 98%

『眠りSCAN 全床導入』

競合他社との差別化を図り、
稼働率改善を目指す

2022年
稼働率 **96%に低下** ↓

導入後も 稼働率は改善せず。
このままだと
経営にも影響が・・・

導入前提となる課題がズレていませんか？

施設の
強みに

見守り
センサー



テクノロジーを再活用するための取組

1

意思統一

全社戦略型 ブランディング

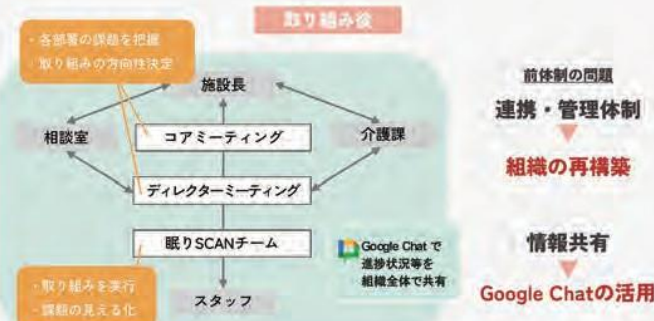


2

連携の強化

組織再構築

変革チーム・小さい成功体験



3

課題の見える化

業務の定量化

組織変革① 課題の見える化 × 組織変革②③ 眠りSCANの活用

ケアの定量化
(業務項目や作業時間の見える化)

組織変革のために使用した手法

全社戦略型ブランディング

全職員が夢や志を共有し、部署の壁を超えて
全社が一丸となるための活動

➔ 第一は、目指す方向性を定める

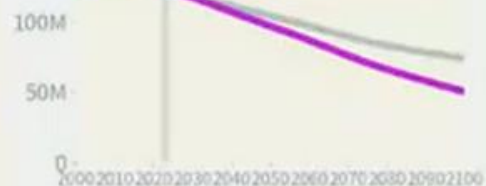
Pop. Δ of Japan, Low / Medium Variant



2023

Σ 123,061,275
 Σ 123,294,464

Trends in population, 2000-2100



Trends in Ave. age, 2000-2100



これから人口減少が深刻化する中で
今までと同じ人数で業務を行うことは不可能。

生産性向上 = 業務改善するしかない



この「危機感」(前提)を組織で共有する。

テクノロジーを再活用するための取組

1

意思統一

全社戦略型 ブランディング

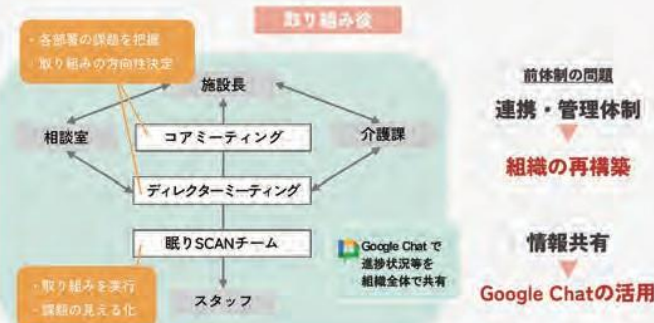


2

連携の強化

組織再構築

変革チーム・小さい成功体験



3

課題の見える化

業務の定量化

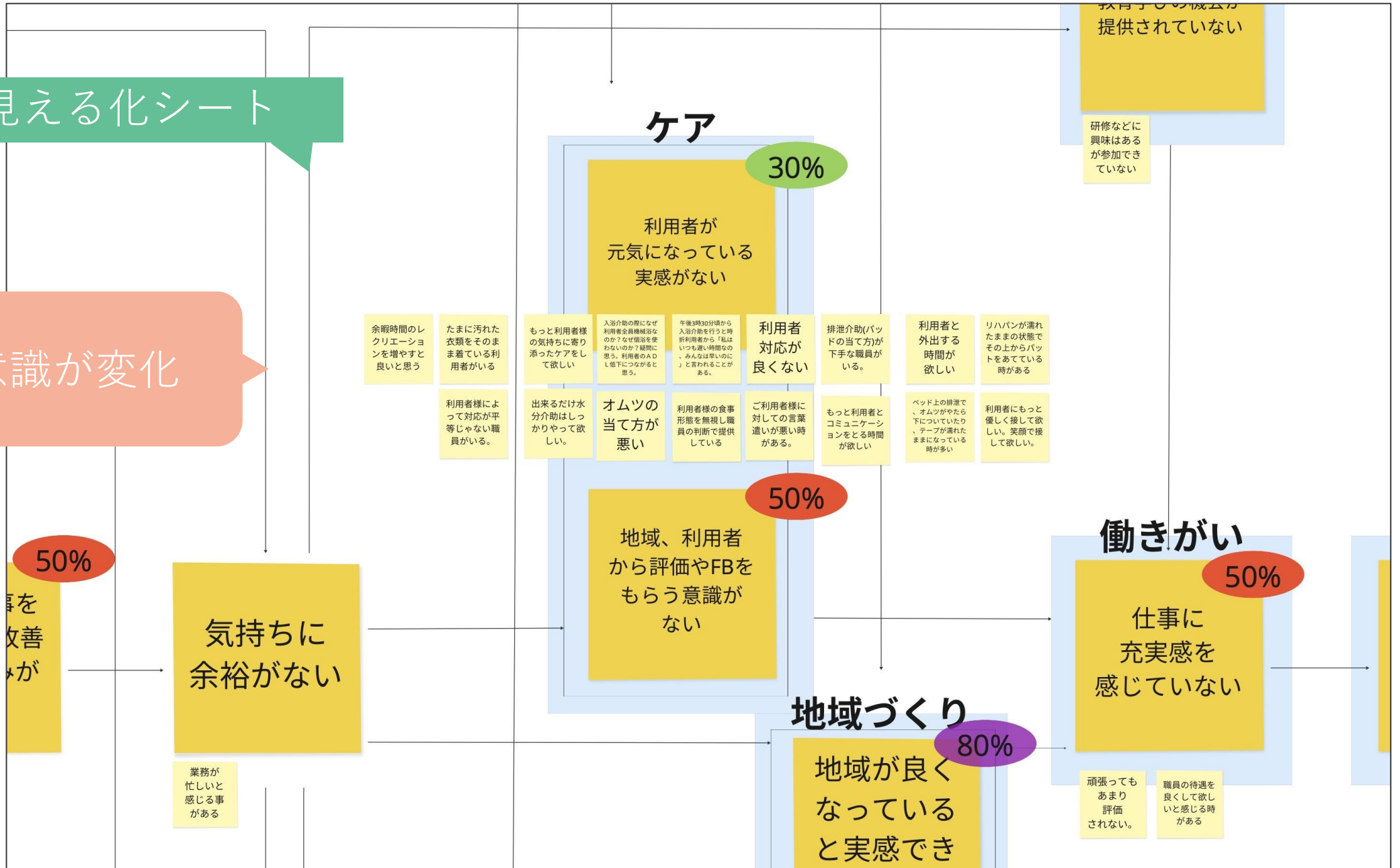
組織変革① 課題の見える化 × 組織変革②③ 眠りSCANの活用

ケアの定量化
(業務項目や作業時間の見える化)

課題の見える化シート



職員の意識が変化



導入前提となる課題がズレていませんか？

夜勤が
大変なんだ

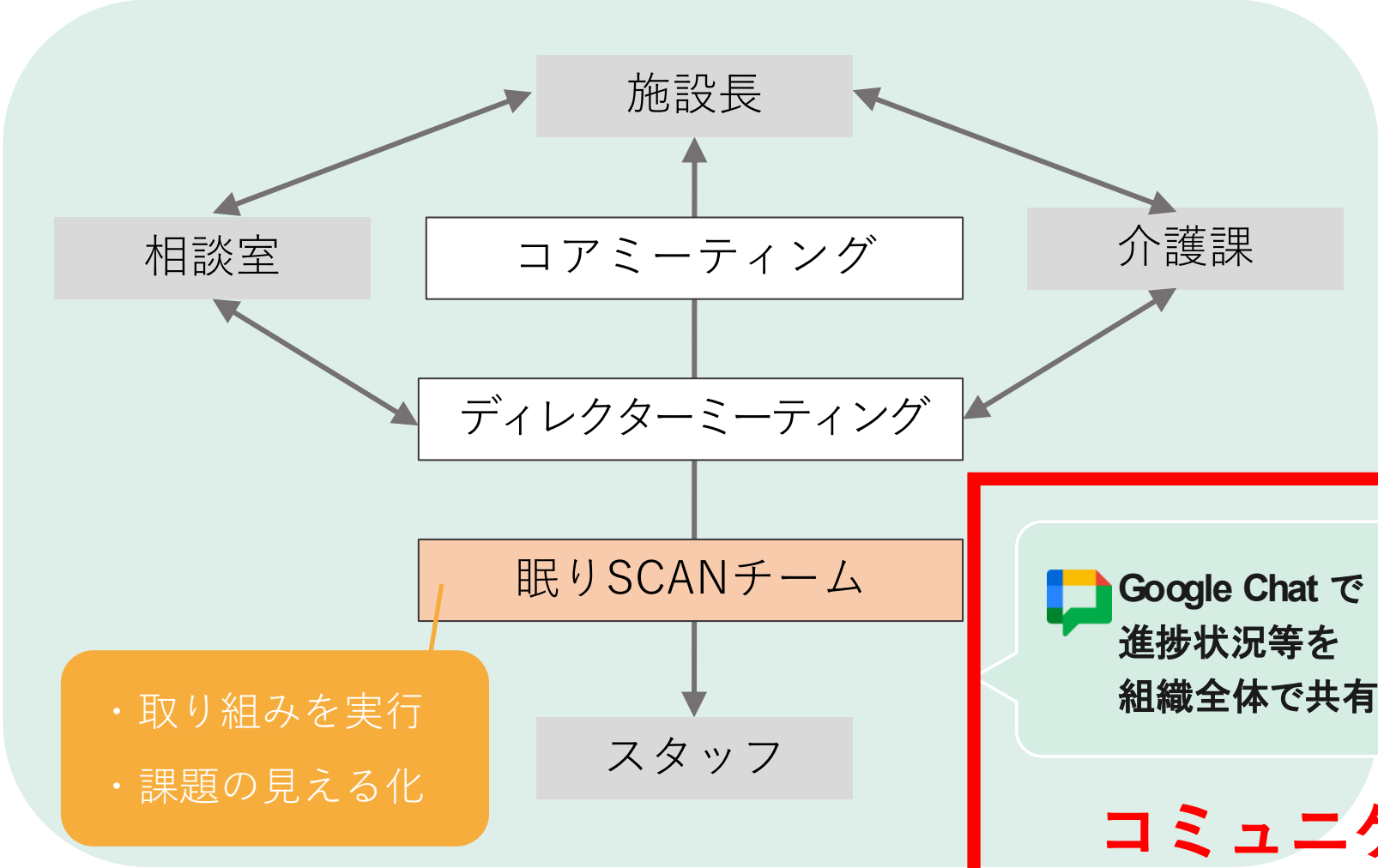
=

夜勤が
大変だ

施設長

職員

変革チームを編成



前体制の問題

連携・管理体制



組織の再構築

情報共有



Google Chatの活用

Google Chatで
進捗状況等を
組織全体で共有

コミュニケーションの生産性向上

テクノロジーを再活用するための取組

1

意思統一

全社戦略型 ブランディング

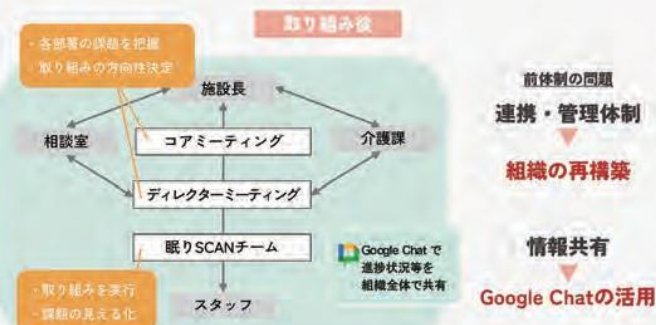


2

連携の強化

組織再構築

変革チーム・小さい成功体験



3

課題の見える化

業務の定量化

組織変革① 課題の見える化 × 組織変革②③ 眠りSCANの活用

ケアの定量化
(業務項目や作業時間の見える化)

1回目 タイムスタディー調査

時間	作業内容	作業内容	作業内容	作業内容	作業内容
9:00	入浴介助	排泄介助	入浴介助	入浴介助	入浴介助
9:10	入浴介助	排泄介助	入浴介助	入浴介助	入浴介助
9:20	入浴介助	排泄介助	入浴介助	入浴介助	入浴介助
9:30	入浴介助	排泄介助	入浴介助	入浴介助	入浴介助
9:40	入浴介助	排泄介助	入浴介助	入浴介助	入浴介助
9:50	入浴介助	排泄介助	入浴介助	入浴介助	入浴介助
10:00	入浴介助	排泄介助	入浴介助	入浴介助	入浴介助
10:10	入浴介助	排泄介助	入浴介助	入浴介助	入浴介助
10:20	入浴介助	排泄介助	入浴介助	入浴介助	入浴介助
10:30	入浴介助	排泄介助	入浴介助	入浴介助	入浴介助
10:40	入浴介助	排泄介助	入浴介助	入浴介助	入浴介助
10:50	入浴介助	排泄介助	入浴介助	入浴介助	入浴介助
11:00	入浴介助	排泄介助	入浴介助	入浴介助	入浴介助
11:10	入浴介助	排泄介助	入浴介助	入浴介助	入浴介助
11:20	入浴介助	排泄介助	入浴介助	入浴介助	入浴介助
11:30	入浴介助	排泄介助	入浴介助	入浴介助	入浴介助
11:40	入浴介助	排泄介助	入浴介助	入浴介助	入浴介助

タイムスタディー 感想と反省

- 事前説明が不十分で記載ルールが曖昧になってしまった。
- 業務が複雑に絡み合っていて明らかな3Mが見えにくい
- **手書き仕様**の為、集計分析に時間を要してしまった。

明確な根拠の
抽出が出来なかった

夜勤

業務時間調査票 同フロアまとめ用 (3名分)

・一人ずつ色を変える ・別フロアと混ぜない

第1日目

			施設名	もくせい	フロア名	4階	調査日	
1人目	22:00	巡視1	体位変換1	1:00	排泄介助(ベット上)	4:00	排泄介助(ベット上)	
2人目		巡視1	体位変換1		排泄介助(ベット上)		コール対応	
3人目		巡視1	体位変換1		コール対応		排泄介助(ベット上)	
1人目	22:10	巡視1	体位変換1	1:10	排泄介助(ベット上)	4:10	トイレ介助2	
2人目		洗濯物たたみ・配布2			トイレ介助2		排泄介助(ベット上)	
3人目		巡視1	体位変換1		コール対応		排泄介助(ベット上)	
1人目	22:20	巡視1	体位変換1	1:20	洗濯物たたみ・配布2	4:20	排泄介助(ベット上)	
2人目		洗濯物たたみ・配布1	トイレ介助1		トイレ介助2		排泄介助(ベット上)	
3人目		コール対応			コール対応		排泄介助(ベット上)	
1人目	22:30	洗濯物たたみ・配布2		1:30		4:30	巡視1	体位変換1
2人目		洗濯物たたみ・配布2					巡視1	体位変換1
3人目		洗濯物たたみ・配布2			その他2		排泄介助(ベット上)	
1人目	22:40	洗濯物たたみ・配布2		1:40		4:40	排泄介助(ベット上)	
2人目		その他2			コール対応		トイレ介助1	その他1

定量評価

調査フロア数

4フロア

(数値のみ入力)

項目	取り組み前	取り組み後	取り組み前	取り組み後
巡視	53分	26分	9.3回	4.7回
体位変換	36分	18分	7.0回	3.5回
排泄介助 (ベット上)	180分	90分	18.0回	9.0回
トイレ介助	105分	53分	11.5回	5.8回
記録	33分	16分	3.5回	1.8回
コール対応	107分	53分	10.7回	5.3回
洗濯物たたみ・配布	51分	25分	5.7回	2.8回
おしぼりたたみ・配布	28分	14分	3.2回	1.6回
清拭タオル洗い	3分	2分	0.7回	0.3回
清拭タオルたたみ・配布	2分	1分	0.2回	0.1回
ごみ回収	12分	6分	1.2回	0.6回
バイタル測定	40分	20分	4.0回	2.0回
起床介助	138分	69分	13.8回	6.9回
申し送り	3分	2分	0.3回	0.2回
清掃	13分	7分	1.3回	0.7回
その他	70分	35分	7.8回	3.9回

眠りSCANで効率化した
巡視・排泄 (ベット上) 時間数比較

取り組み前

取り組み後

233分/日



116分/日

夜勤者一人当たり

117分/日

業務効率化

1. 夜勤が大変だ（課題の見える化）
2. 何で大変なんだろう（分析／課題抽出）
→巡視に時間がかかっている
3. 眠りスキャンの呼吸・心拍数機能を活用し
巡回回数を減らしてみても（手段）
4. 巡視必要・不要者を選出して（実行）
5. 時間ができた、眠りの質が良くなった（成果）

定量評価

調査フロア数

4フロア

(数値のみ入力)

項目	取り組み前	取り組み後	取り組み前	取り組み後
巡視	53分	26分	9.3回	4.7回
体位変換	36分	18分	7.0回	3.5回
排泄介助（ベット上）	180分	90分	18.0回	9.0回
トイレ介助	105分	53分	11.5回	5.8回
記録	33分	16分	3.5回	1.8回
コール対応	107分	53分	10.7回	5.3回
洗濯物たたみ・配布	51分	25分	5.7回	2.8回
おしぼりたたみ・配布	28分	14分	3.2回	1.6回
清拭タオル洗い	3分	2分	0.7回	0.3回
清拭タオルたたみ・配布	2分	1分	0.2回	0.1回
ごみ回収	12分	6分	1.2回	0.6回
バイタル測定	40分	20分	4.0回	2.0回
起床介助	138分	69分	13.8回	6.9回
申し送り	3分	2分	0.3回	0.2回
清掃	13分	7分	1.3回	0.7回
その他	70分	35分	7.8回	3.9回

眠りSCANで効率化した

巡視・排泄（ベット上）時間数比較

取り組み前

取り組み後

233分/日

116分/日

夜勤者一人当たり

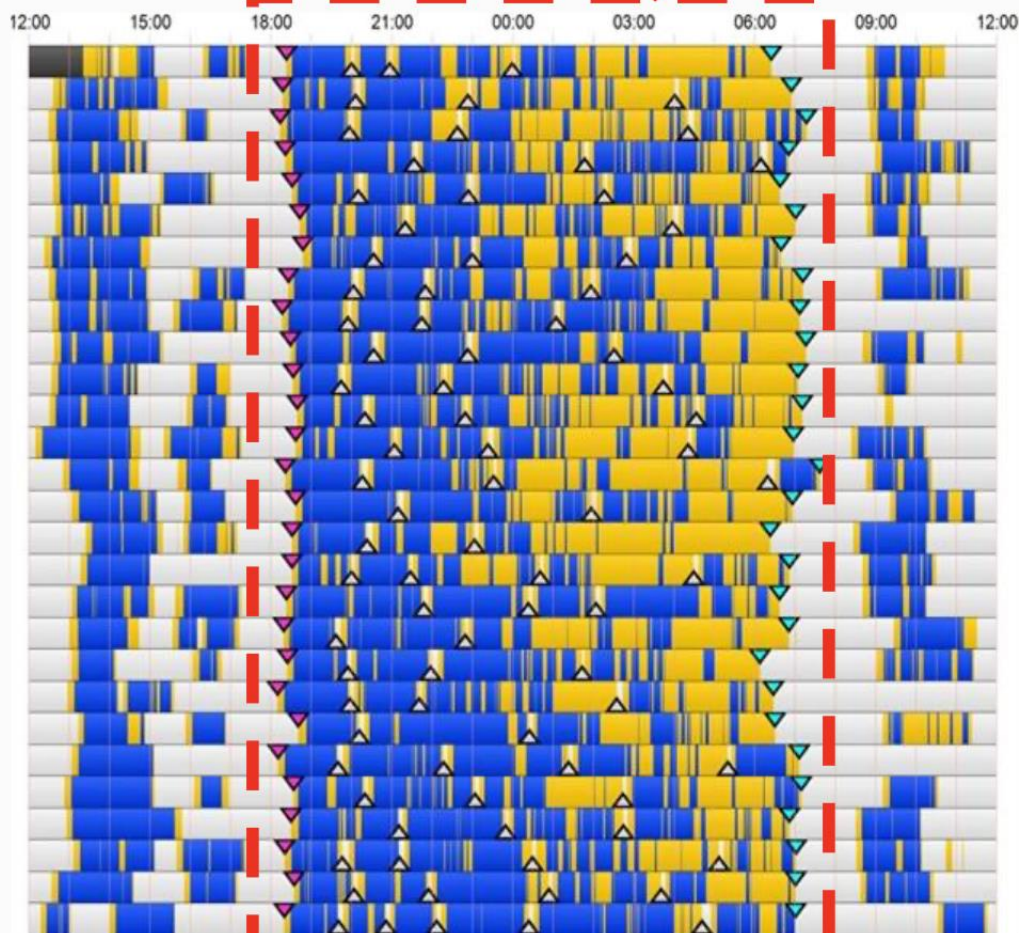
— 117分/日

業務効率化

取り組み前後のデータの検証 B様(78歳) 男性 要介護4

取組前(2024/12月)

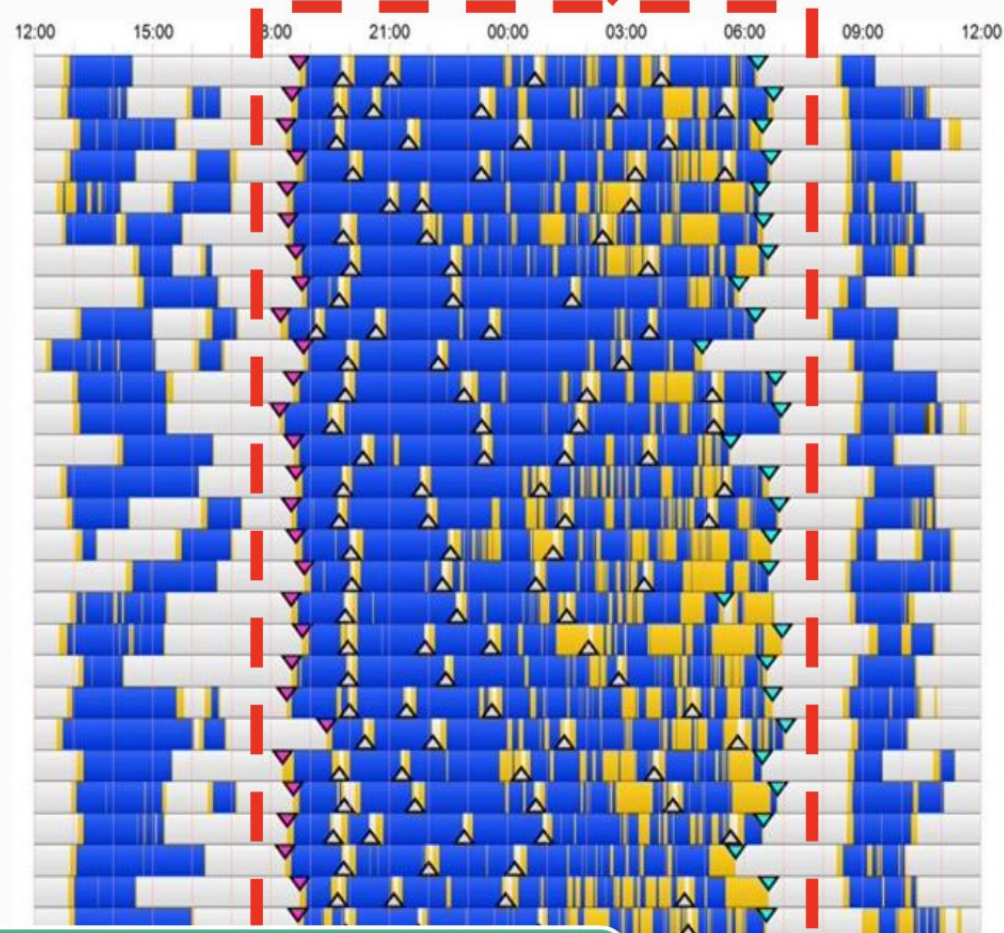
0時以降に覚醒している



睡眠効率 55%

取組後(2025/5月)

0時以降の覚醒頻度低下



睡眠効率 72%

成果

- 宿直員廃止 2,000,000円

▶眠りスキャン活用による業務効率化や年間を通しての対応回数の検証

- 排泄見直し 300,000円

▶眠りスキャン活用による業務効率化

コスト削減額／年間（予定）

約2,300,000円

職員の待遇改善に係る取り組み

男性職員の育児休暇の促進 外国籍職員の帰省・長期休暇

男性の育児休暇の制度自体はあったが、介護現場のシフト調整や同僚との軋轢等の心配などから取得する職員がいなかった。
子供が生まれた男性職員から育児休暇の相談があり、また、同時期に外国人職員から母国旧正月に合わせて帰省したいとの申し出があった。

●業務効率化により現場で調整できる仕組みの構築

- ・日中のタイムスタディー調査を実施しスケジュールの見直し
- ・現場の状況毎のフローチャートの作成
- ・介護補助の配置

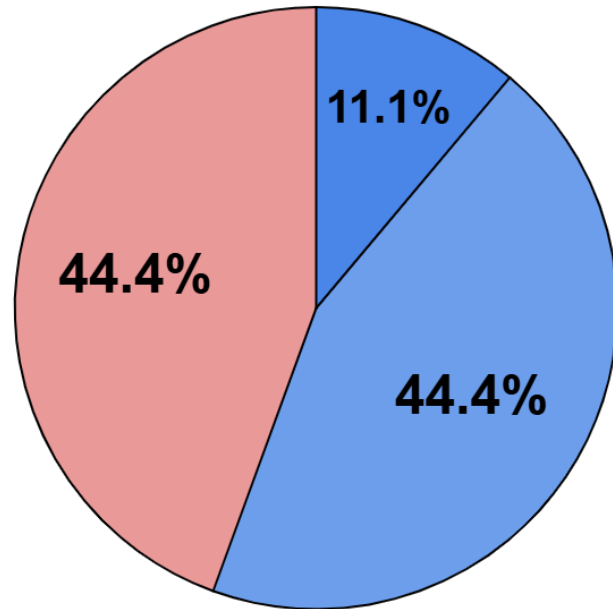


- ①男性職員の育児休暇4週間 実現
- ②外国人職員帰国支援22日間 実現



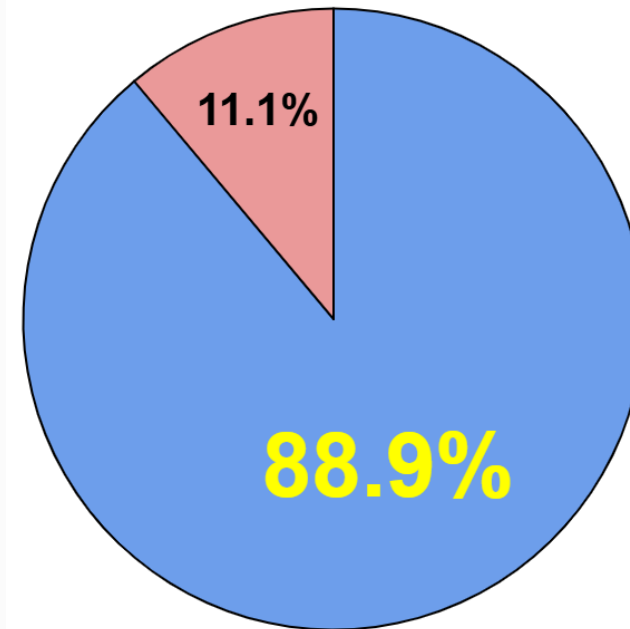
職員アンケート Q.利用者に自分たちが思ういいケアが提供できていますか? ※n=10

取組前



● とともそう思う ● ある程度そう思う
● あまりそう思わない

取組後



● ある程度そう思う ● あまりそう思わない

効果の見える化 ▶ 業務への自信、モチベーションUP
(数値化)



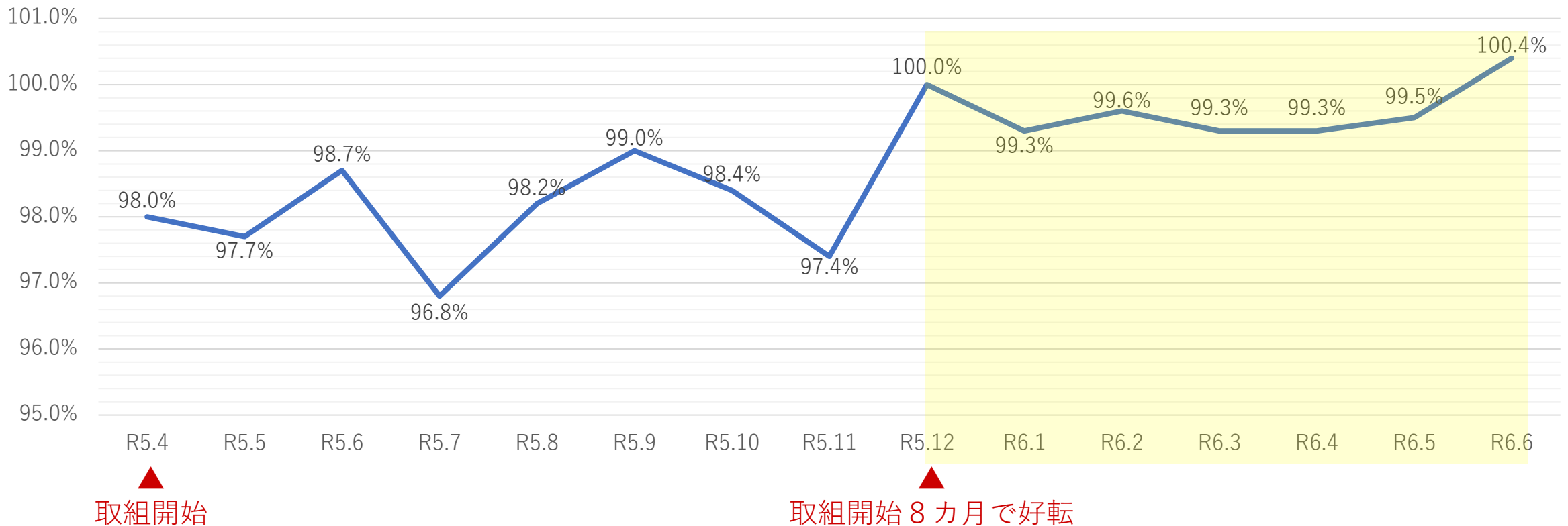
2021年 稼働率平均 97.8%
2022年 稼働率平均 96.8% ◀ 眠りSCAN導入
2023年 稼働率平均 98.5% ◀ 取組開始

取組み開始から
15ヶ月経過

目標稼働率

99%以上 継続達成
(R6.6現在)

稼働率推移



テクノロジーを活用した取組の成果

① 業務効率の改善

眠りSCANを十全に活用できる体制、
ケアの定量化により

巡視・排泄（ベット上）の業務時間

夜勤者
1人当たり **-117分／1日**

② コスト削減

宿直員の廃止、
排泄介助見直し など

**年間約230万円
経費削減**

③ 稼働率の回復

テクノロジーの活用と
連携体制再構築により

2022年 稼働率96%

▼
2024年 **稼働率99%達成**

④ 働きやすい環境づくり

- ・ 職員のモチベーション向上
- ・ 職員のエンゲージメント向上

テクノロジーの活用や部署間の連携がスムーズになり、職員が休暇等
を取りやすい働きやすい職場へ

育児取得率 **100%**
(男女共に)

多様な働き方が導入できていると実感

取組前 25% ▶ 取組後 **95.8%**

⑤ 他部署横展開

デイサービス・給食課の
時間外労働時間

14%/月 削減